



2014年1月8日

各 位

会 社 名 株式会社 コ ッ ク ス  
 代表者名 代表取締役社長 吉竹 英典  
 (コード番号：9876 JASDAQ)  
 問合せ先 取締役経営管理部長 速水 英樹  
 (TEL：03-5821-6070)  
 当社の親会社 イオン株式会社  
 代表者名 取締役兼代表執行役社長 岡田 元也  
 (コード番号：8267 東証第1部)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2014年2月期(2013年3月1日～2014年2月28日)の通期業績予想について、2013年4月9日に発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

## 記

## 1. 2014年2月期(2013年3月1日～2014年2月28日)連結業績予想の修正

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	24,300	200	370	50	1.81
今回修正予想 (B)	21,200	△1,400	△1,200	△2,300	△83.42
増 減 額 (B-A)	△3,100	△1,600	△1,570	△2,350	—
増 減 率 (%)	△12.8	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (2013年2月期)	23,394	△1,025	△842	△1,321	△47.93

## 2. 2014年2月期(2013年3月1日～2014年2月28日)個別業績予想の修正

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	24,000	290	370	50	1.81
今回修正予想 (B)	20,900	△1,300	△1,100	△2,300	△83.42
増 減 額 (B-A)	△3,100	△1,590	△1,470	△2,350	—
増 減 率 (%)	△12.9	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (2013年2月期)	23,208	△904	△726	△1,472	△53.44

### 3. 修正の理由

上半期の売上高については、第1四半期は初夏物商品の苦戦、第2四半期は夏のセールの早期化・長期化の影響によるプロパー販売機会の減少などもあり、計画から大きく乖離しました。商品では、メンズがアパレル・雑貨共に堅調に推移する一方、レディースが期間を通じて苦戦しました。

下半期はこれを挽回すべく、政策実行の成果を上半期に得られ、かつ売上・利益の季節指数が高い「メンズ」「雑貨」をさらに強化すると同時に、商品の開発・仕入・販売過程を抜本的に見直すことで、レディースの回復を進めてまいりました。販管費についても、物流センターの統合、本社経費の見直しによるコスト削減に取り組みました。

ブランド別では、主力の「i k k a」については、現有店舗を「カップル型」「シニアシフト型」「ファミリー型」に類型化し、業態のブラッシュアップを進め、「ファミリー型」2店舗を新規出店しました。また、「CURRENT」を「i k k a」事業部内に組織再編し、運営の効率化を図るとともに、「i k k a」のアウトレット機能を担うことで在庫循環を進め、荒利益率の回復を図ってまいりました。

「LBC」は、生活雑貨の商品ラインナップの拡充、服飾雑貨の直接輸入販売商品の拡大等により、坪効率の改善を図ってまいりました。

「VENCE EXCHANGE」は、メンズ・雑貨拡大による坪効率の改善を図ってまいりました。メンズ強化が順調に進んだことで、第3四半期においては既存店売上高前年実績(同日対比)を超過しました。また、「デジタルシフト」のトレンドに沿い、ネットとリアル店舗との相互送客を進め、9月には日本最大のファッション通販サイト「ZOZOTOWN」、10代~20代女性向けガールズショッピングサイト「LABOO(ラブー)」へ新たに出店いたしました。

しかしながら、第3四半期においては、9月の残暑による秋物商品立ち上がりの遅れや、10月以降平年より気温が高く推移したことも影響し、売上高・荒利益拡大を図るべく取り組んでいたニット・アウターなどの冬物商品の動きが前年より2週間ほど遅れました。11月においても上旬まで高い気温で推移したため、利益を最大化する冬物アウター商戦での商品の動きは月度中旬以降となり、売上高・荒利益は計画と乖離し、第3四半期の業績に大きく影響しました。12月以降においては、気温の低下とともにアウターが堅調に推移し、売上高はやや回復傾向にあるものの、競合他社との値下げ販売激化により、荒利益高は厳しい数値となりました。

以上の結果、通期業績予想を修正いたしました。

(注) 上記の業績予想は、本資料発表日現在において、入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以 上